

『約束の国への長い旅』

(2018年9月7日 初版発行)

上記書籍の以下の箇所に、誤りがございました。

謹んでお詫び申しあげますとともに、訂正文を掲出いたします。

2019.2 更新

天草丸についての記述

87 ページの記述につきまして、以下のように訂正いたします。

ページ	行	誤	正
87	6	日本郵船 <small>ゆうせん</small> の「天草丸」 <small>あまくさまる</small>	北日本汽船 <small>あまくさまる</small> の「天草丸」

ニシュリ氏についての記述

1968年に千畝が東京のイスラエル大使館で会ったニシュリ氏につきまして、彼の父がカウナスで杉原からビザをもらったという内容になっておりますが、正しくは、彼がビザをもらった本人でした。

121 ページ、122 ページ、125 ページの記述につきまして、以下のように訂正いたします。

ページ	行	誤	正
121	9	『わたしの父のことを覚えてらっしゃいますか。』	『わたしのことを覚えてらっしゃいますか。』
	12	『わたしはあなたのことを父から <small>おぼ</small> きいています。両親はあなたのことを一日としてわすれたことはありません。』	『わたしはあなたのことをよく覚えています。あなたのことを一日としてわすれたことはありません。』
	16	カウナスで彼の父 <small>かれ</small> に出したビザだった。	カウナスで出したビザだった。
122	6	『おぼえていらっしゃらないでしょうね。父は、おおぜいの中のひとりでしたから。』	『おぼえていらっしゃらないでしょうね。わたしはまだ若 <small>わか</small> かったし、おおぜいの中のひとりでしたから。』
125	7	ニシュリさんは来日前に、両親のビザをコピーして、日本にある自国の大使館に送りました。	ニシュリさんは来日前に、自分のビザをコピーして、日本にある自国の大使館に送りました。

2020.4 更新

『わが闘争』日本語訳についての記述

47 ページの記述につきまして、以下のように訂正いたします。

ページ	行	誤	正
47	5～6	この本は一九三二年（昭和十七年）に日本でも訳 <small>やく</small> されましたが、日本人が読んだらナチス・ドイツに反感 <small>はんかん</small> をもつようなところは省略 <small>しょうりゃく</small> されていました。	この本は日本でも一九三二年（昭和七年）からいろんな人によって翻訳 <small>ほんやく</small> されていましたが、全訳といわれていたものでも、一般 <small>いっぱん</small> に出回 <small>でまわ</small> っていたものは、日本人が読んだらナチス・ドイツに反感 <small>はんかん</small> をもつようなところは省略 <small>しょうりゃく</small> されていました。